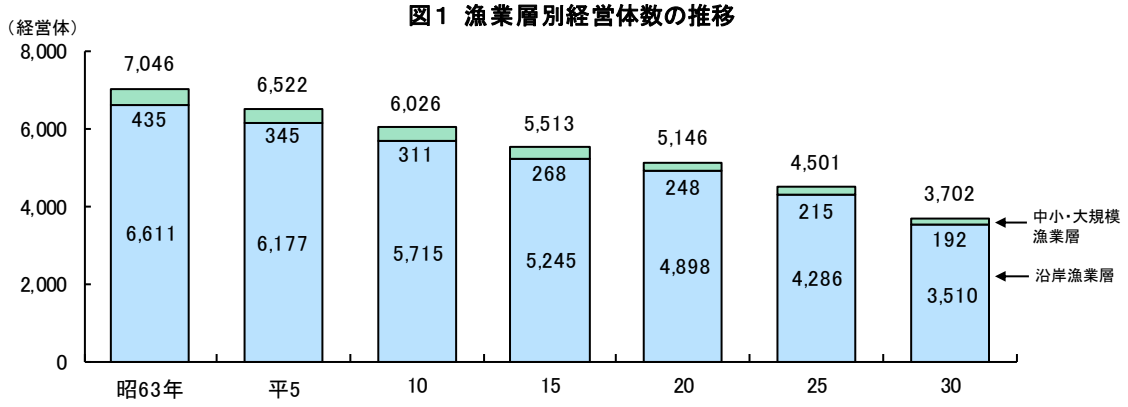
9　水産業

（1）漁業経営体数

～漁業経営体数の減少傾向続く～

平成 30 年（概数値）の漁業経営体数は 3,702 経営体で、年々減少傾向にある（**図１**）。

図１ 漁業層別経営体数の推移



資料：農林水産省漁業・養殖業統計年報、漁業センサス

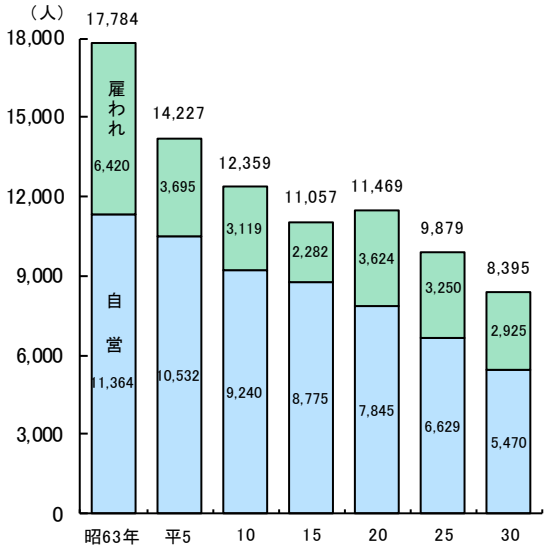
（2）漁業就業者数

～漁業就業者は減少～

平成 30 年の漁業就業者数は 8,395 人で、５年前と比べ 15.0%減少した。このうち自営漁業就業者数が 5,470 人で 17.5%の減少、漁業雇われ就業者数が 2,925 人で 10.0%の減少となった（**図２**）。

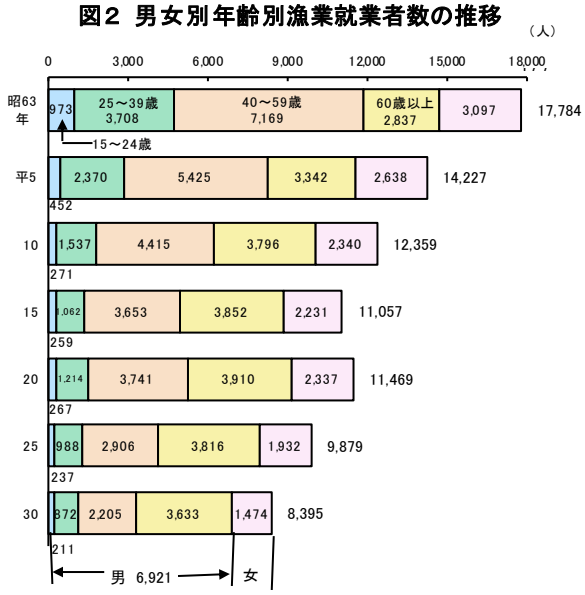
漁業就業者数を男女別にみると、男性は 6,921 人、女性は 1,474 人となっている。男性のうち 60 歳以上は 3,633 人と 54.3%を占めており、高齢化が進行している（**図３**）。

図１ 自営・雇われ別漁業就業者数の推移



資料：漁業センサス

図２ 男女別年齢別漁業就業者数の推移



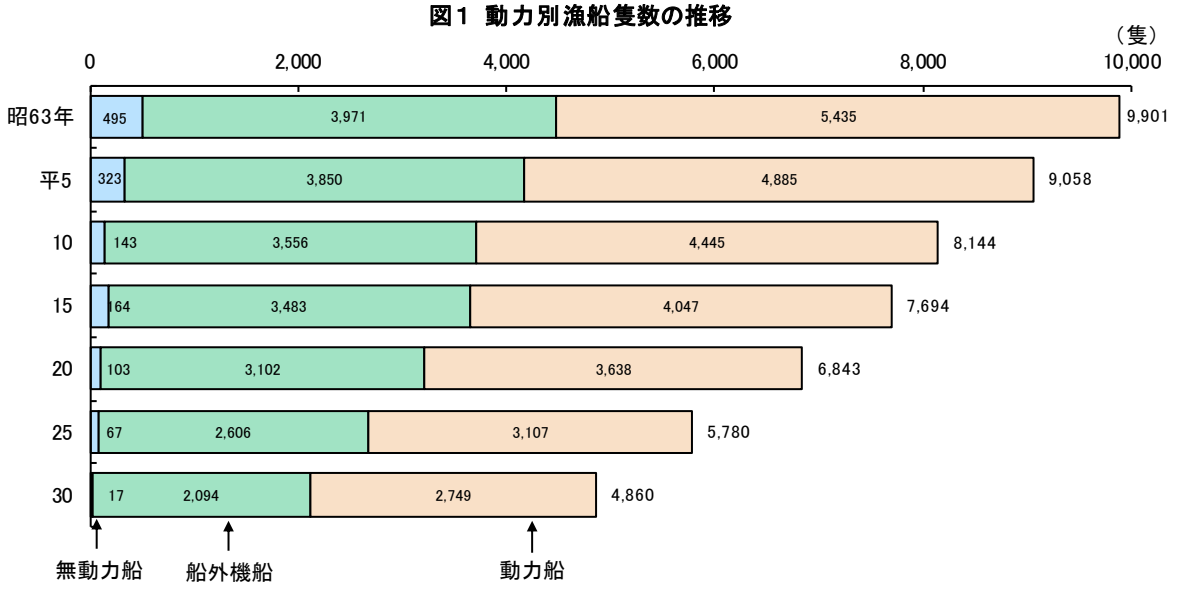
資料：漁業センサス

（３）漁船

～漁船隻数は動力船を中心に減少傾向～

平成 30 年の漁船隻数は 4,860 隻で、５年前に比べ 15.9%減少した。全体に占める割合は、動力船が 2,749 隻で 56.6%、船外機船が 2,094 隻で 43.1%、無動力船が 17 隻で 0.3%となっている（図１）。

図１ 動力別漁船隻数の推移



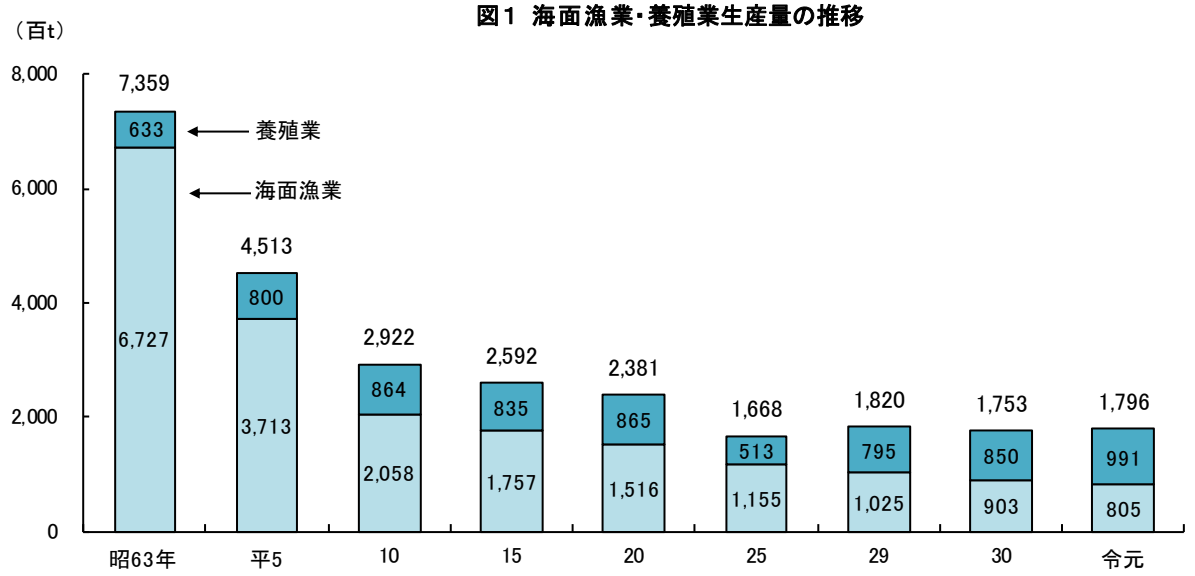
資料：農林水産省漁業・養殖業統計年報、漁業センサス

（４）海面漁業・養殖業（生産量）

～生産量は 2.5%増加～

令和元年の海面漁業・養殖業の総生産量は 17 万 9,611 t で、前年に比べ 4,299 t （2.5%）増加した。全国に占める割合は 4.3%で、順位は５位（前年６位）であった。内訳をみると、海面漁業は８万 473 t（前年比 11.0%減）、海面養殖業は９万 9,138 t （前年比 16.7%増）となっている（図１）。

図１ 海面漁業・養殖業生産量の推移



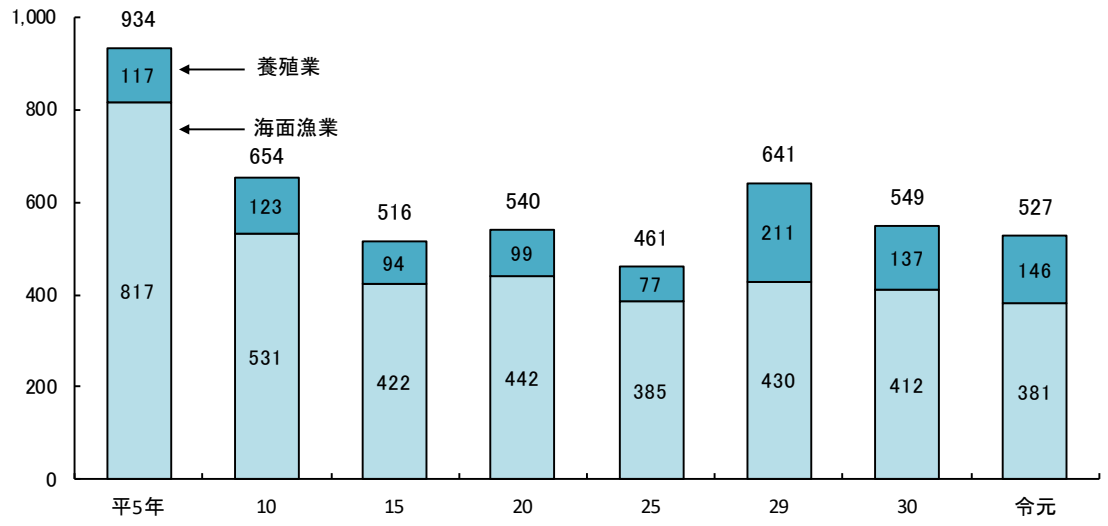
資料：農林水産省漁業・養殖業生産統計年報

（５）海面漁業・養殖業（産出額）

～産出額は 4.1%減少～

令和元年の産出額は 526 億 7,000 万円で、前年に比べ 22 億 2,800 万円（4.1%）減少した。全国に占める割合は 3.9%で順位は６位（前年７位）となった。内訳をみると、海面漁業は 380 億 5,800 万円（前年比 7.5%減）、海面養殖業は 146 億 1,200 万円（前年比 6.3%増）となっている（図１）。

図１ 海面漁業･養殖業産出額の推移



資料：農林水産省漁業産出額

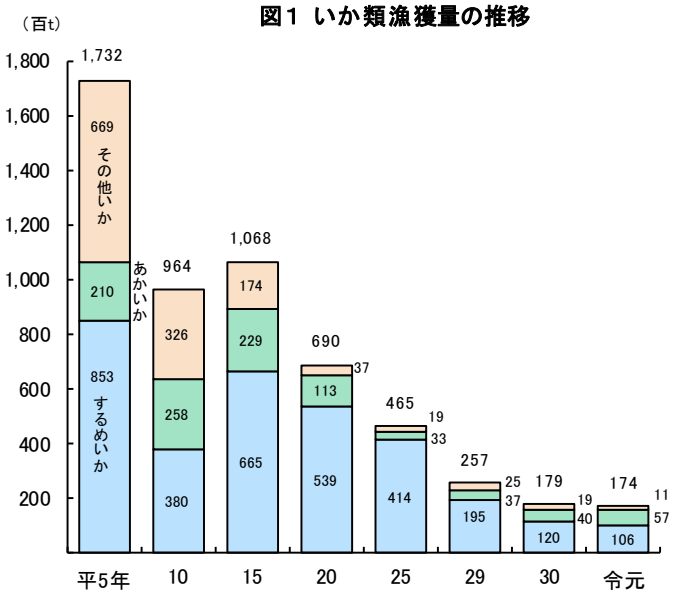
（６）主要漁業・養殖業の動向（いか類）

～いか類の漁獲量は全国１位～

令和元年のいか類の漁獲量は１万 7,350 t で、前年に比べ 581 t （3.2%）減少した（図１）。

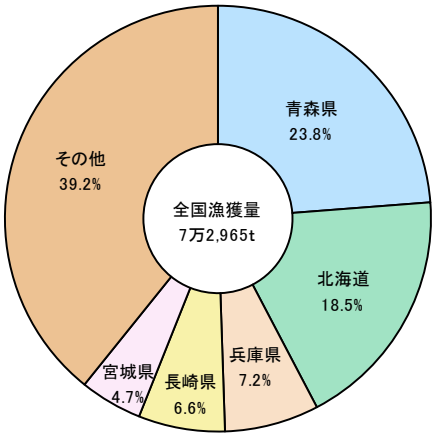
全国の漁獲量に占める割合は 23.8%で、全国１位となっている（図２）。

図１ いか類漁獲量の推移



資料：農林水産省漁業･養殖業生産統計年報

図２ いか類漁獲量の
全国における青森県の位置（令和元年）



資料：農林水産省漁業･養殖業生産統計年報

（７）主要漁業・養殖業の動向（ほたてがい）

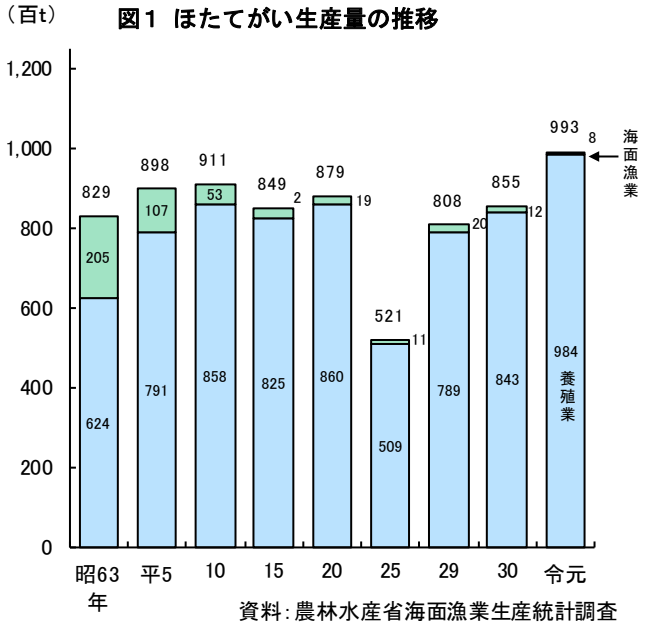
～ほたてがい生産量は全国２位～

令和元年のほたてがい生産量は９万 9,265ｔで、前年に比べ 13,792ｔ（16.1%）増加した。このうち養殖業は９万 8,448ｔで、前年に比べ 14,169ｔ（16.8%）増加した（図１）。

全国に占める青森県の生産量の割合は 20.5%で、北海道に次いで全国第２位となっている（図２）。

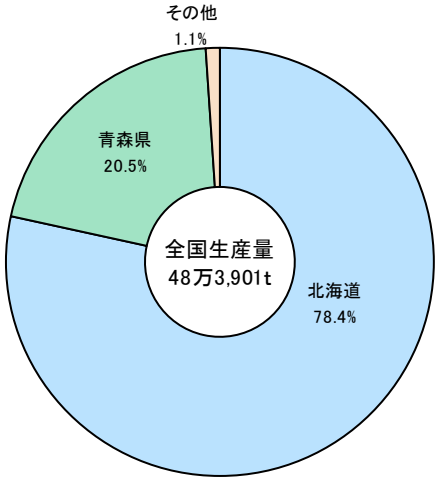
令和元年の産出額は 145 億 9,700 万円で、前年に比べ７億 1,900 万円（5.1%）増加した。このうち養殖業は 143 億 5,000 万円で、前年に比べ７億 9,500 万円（5.8%）増加した（図３）。

図１ ほたてがい生産量の推移



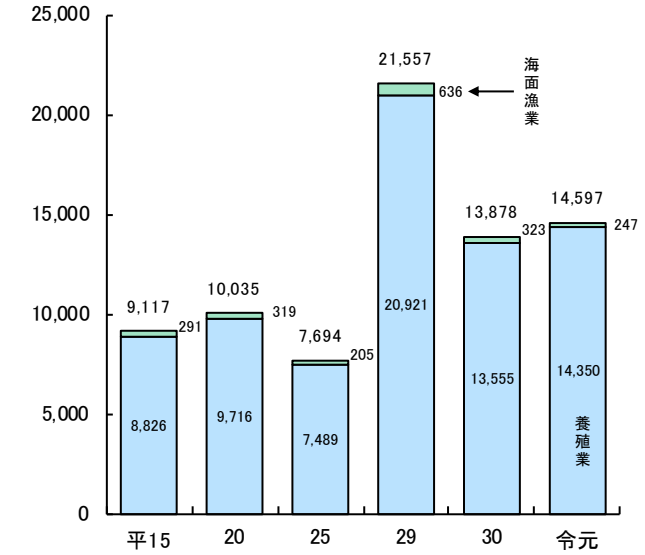
資料：農林水産省海面漁業生産統計調査

図２ ほたてがい生産量の全国における青森県の位置（令和元年）



資料：農林水産省海面漁業生産統計調査

図３ ほたてがい産出額の推移



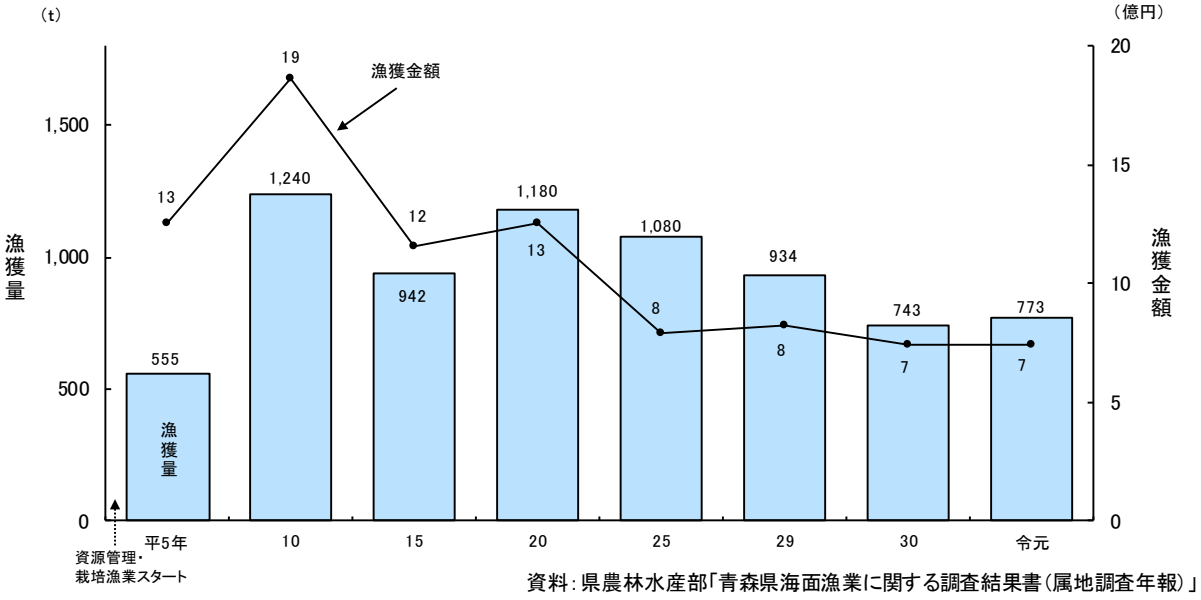
資料：農林水産省漁業産出額

（８）主要漁業・養殖業の動向（ひらめ）

～種苗放流等による資源管理型漁業～

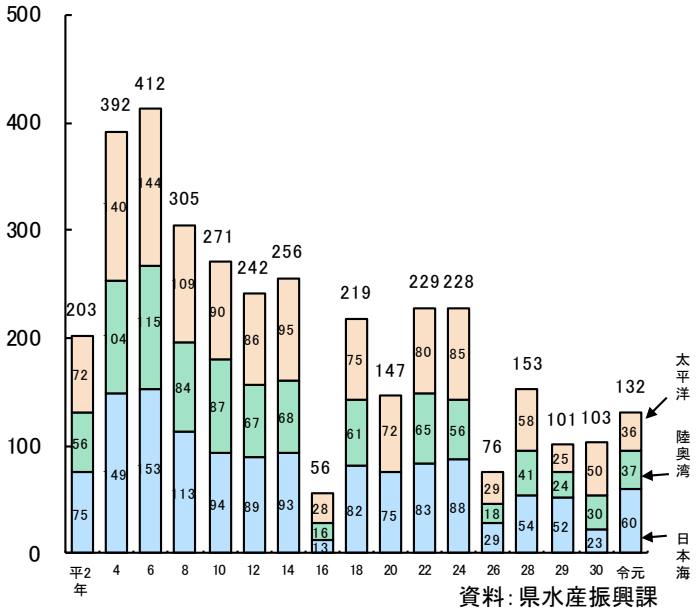
本県では、資源を回復し増やす取組として、増養殖場等の造成や人工的に生産した稚魚の放流を行う「つくり育てる漁業」と小型魚や産卵する親を保護する「資源管理型漁業」が実施されている。ひらめは青森県全域で漁獲されること、かつて漁獲量が日本一であったことなどから昭和 62 年に「県の魚」に指定され、平成２年から毎年 200 万尾を目標として稚魚を放流する「つくり育てる漁業」と全長 35cm 未満個体の再放流を柱とした「資源管理型漁業」を行ってきた。その結果、資源は順調に回復し、平成８年には漁獲量が 1,000 t を超え、平成 12 年にはこれまでで最も多い 1,807 t を記録した。その後、漁獲量は 1,000 t 前後で推移しており、令和元年は 773 t であった（図１）。

図１ ひらめの漁獲量及び金額の推移



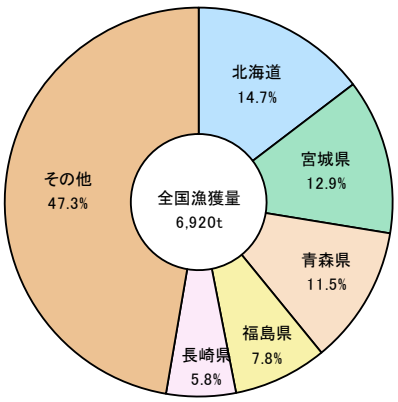
資料：県農林水産部「青森県海面漁業に関する調査結果書（属地調査年報）」

図２ 海区別ひらめ種苗放流実数の推移



資料：県水産振興課

図３ ひらめ漁獲量の全国における青森県の位置（令和元年）



資料：農林水産省漁業・養殖業生産統計年報

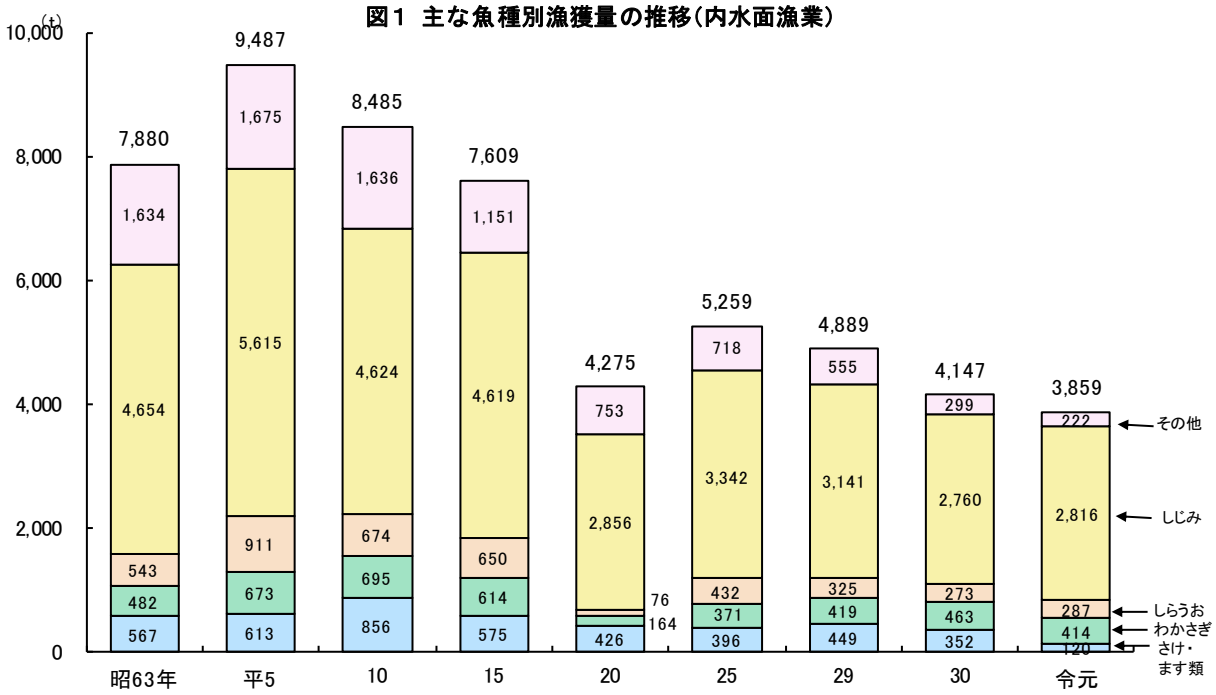
（９）内水面漁業・養殖業

～しじみ漁獲量が全国２位～

令和元年の内水面漁業における漁獲量は 3,859 t で、前年に比べ 288t（6.9%）減少した。主な魚種別にみると、しじみが 2,816t（前年比 56t 減）で全体の 73.0%を占め、次いでわかさぎ（10.7%）、しらうお（7.4%）などとなっている（図１）。

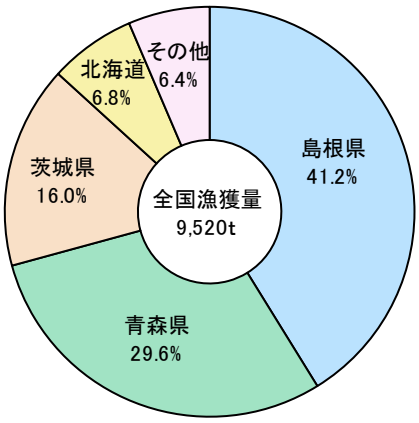
しじみ漁獲量の全国に占める割合は 29.6%で全国２位（図２）、わかさぎ漁獲量は 42.2%で全国１位となっている（図３）。

図１ 主な魚種別漁獲量の推移（内水面漁業）



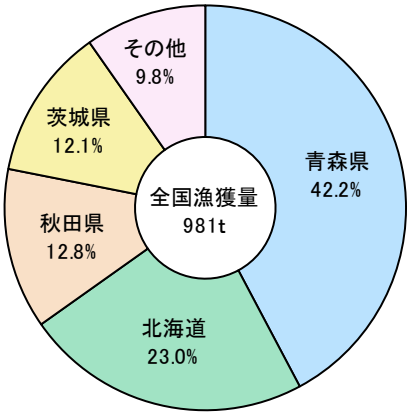
資料：農林水産省漁業・養殖業生産統計年報

図２ しじみ漁獲量の全国における青森県の位置（令和元年）



資料：農林水産省漁業・養殖業生産統計年報

図３ わかさぎ漁獲量の全国における青森県の位置（令和元年）



資料：農林水産省漁業・養殖業生産統計年報

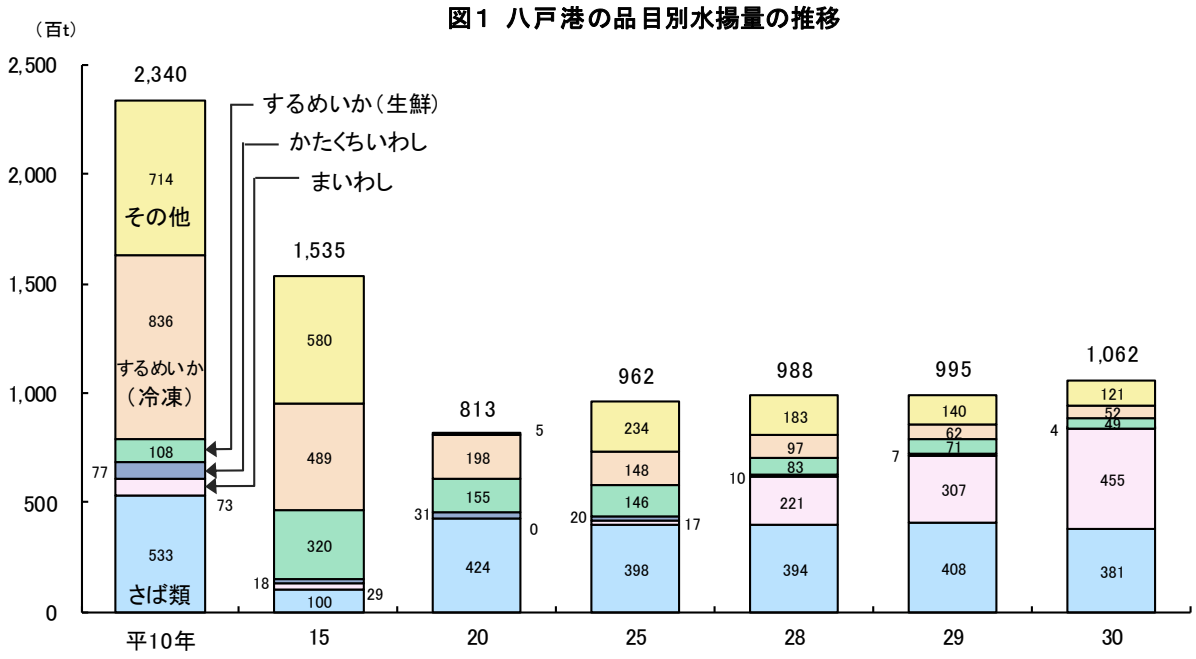
（10）水産物流通

～八戸港の水揚量、するめいかは減少～

県内主要水揚港である八戸港の平成30年水揚量は10万6,175ｔで、前年に比べ6,706t(6.7%）増加した。主な品目別にみると、するめいかは1万101ｔ（生鮮4,906ｔ、冷凍5,195ｔ）となり、前年に比べ3,147ｔ（23.8%）減少した（図１）。1kg当たりの単価は、するめいか（生鮮）が前年に比べ7円値上がりの509円、するめいか（冷凍）が前年に比べ16円値下がりの640円となった（図２）。

さば類は3万8,124ｔで前年に比べ2,714ｔ（6.6%）減少し（図１）、単価は前年に比べ3円値下がりの117円となった（図２）。

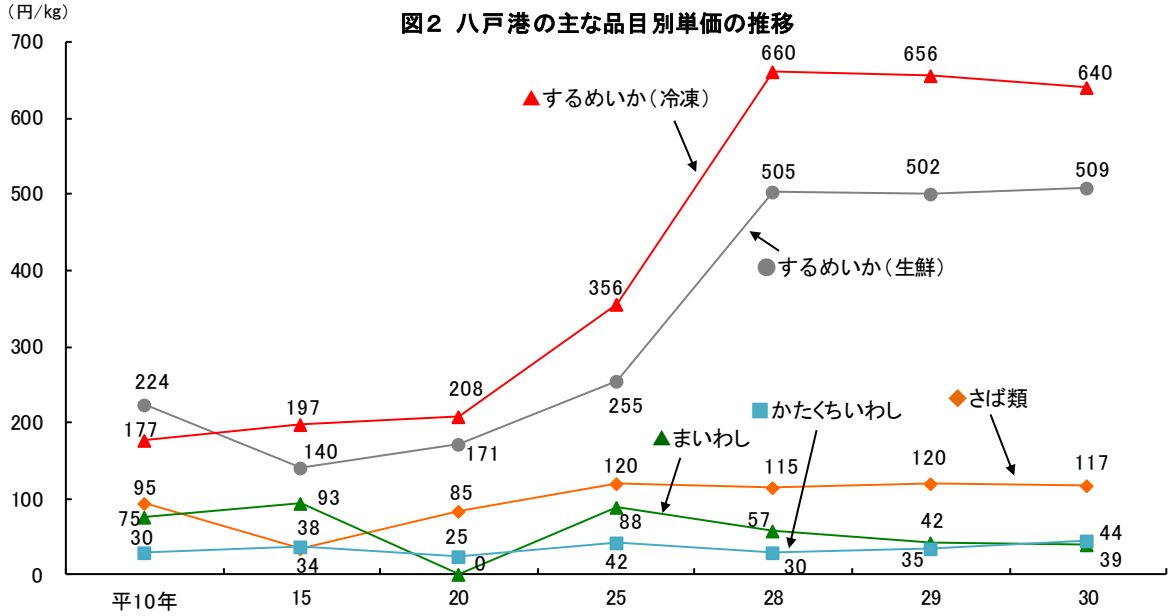
図１ 八戸港の品目別水揚量の推移



（注）平成19年、22年に調査品目の変更があったため、データは連続しない

資料：農林水産省水産物流通統計年報

図２ 八戸港の主な品目別単価の推移

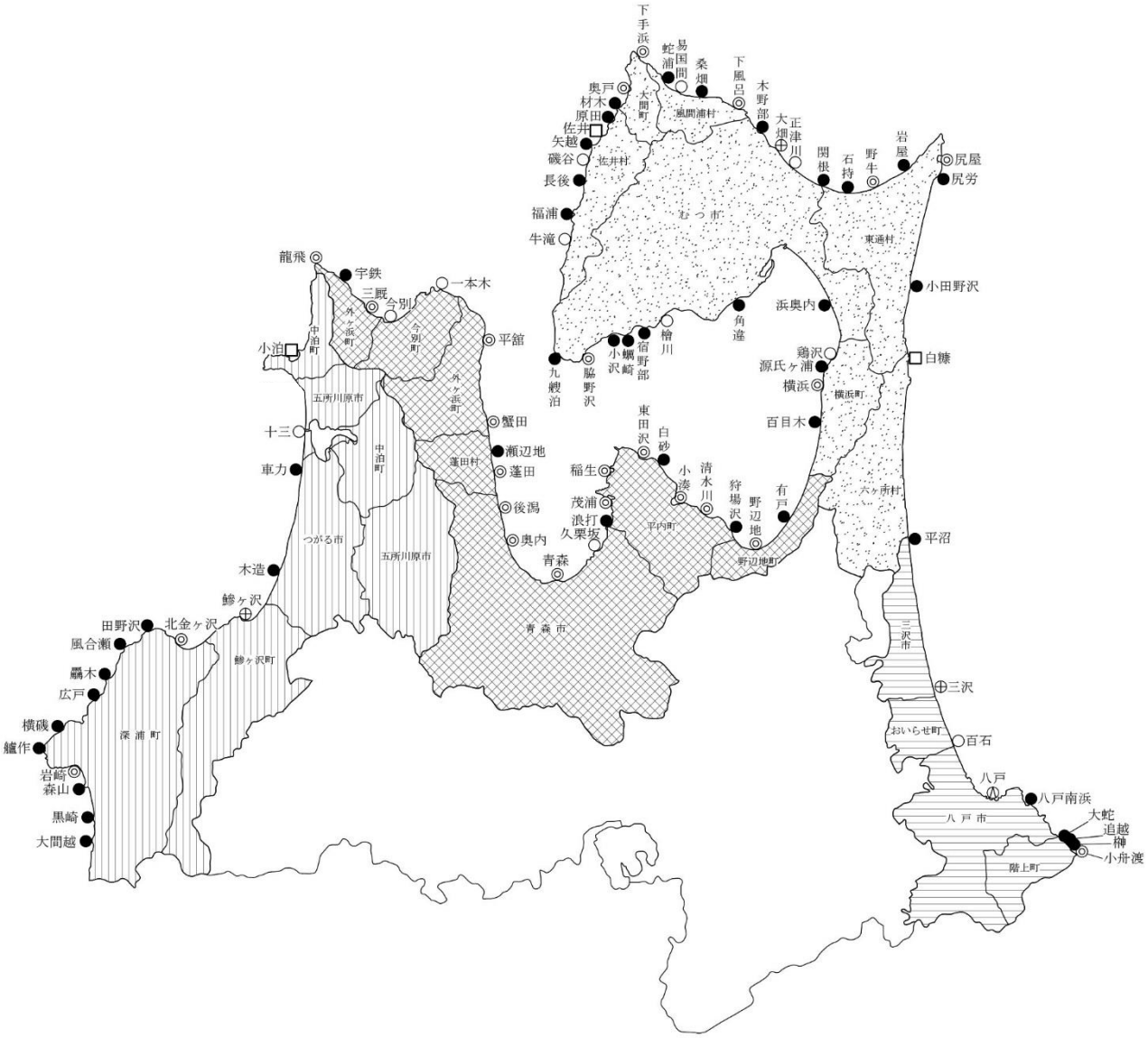


資料：農林水産省水産物流通統計年報

(11) 漁　港　整　備

～漁業の基地として重要な役割～

全国には 2,790 の漁港があり、漁業の基地として重要な役割を果たしている。このうち、青森県には 85 の漁港があり、全国で 14 番目の漁港数となっている。(令和２年４月１日現在)



漁港の種類

種　　別	港数	概　　要
●　第１種漁港（市町村管理） ○　第１種漁港（県管理）	43 11	地元の漁船が主に利用する漁港で、原則として市町村が管理するが、地域の実情などにより県が管理するものがある。
◎　第２種漁港	24	利用範囲が、第１種漁港よりも広く、第３種漁港よりもせまい漁港。 （岩崎、北金ヶ沢、龍飛、三厩、平舘、青森、小湊、野辺地、下風呂、尻屋ほか）
⊕　第３種漁港	3	地元の漁船だけでなく、全国の漁船も多く利用する漁港。 （鰺ヶ沢、大畑、三沢）
□　第４種漁港	3	交通の不便な場所にあって漁場の開発や漁船の避難のために利用される漁港。 （小泊、佐井、白糠）
⑧　特定第３種漁港	1	第３種漁港のうち、水産業の振興上特に重要な漁港で、全国に 13 漁港しかない。 （八戸）
計	85	